

須 加 院 川 あ り が と う			須加院川の会 第　　〇 7 1 号
連絡先事務局	〒679-2132　姫路市香寺町須加院470-1	電話とファクス	発行日　H22.　8. 28
メ　　ル	blue_sky@gaia.eonet.ne.jp	079-265-3631	発　行　上月時男
ホームページ	http://www.eonet.ne.jp/~sukain/index.html http://himeji.genki365.net/gnkh09/mypage/index.php?gid=G0000074		編　集　上月勝好 印　刷　小野高速

‘10/09～‘10/11 月の予定

	月　日	時　間	集合場所	中止・決行は集合時刻に集合場所で発表
183	9 月　5 日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・草刈とゴミ拾いする所は当日発表します
184	10 月 3 日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・田川神社裏～毘沙門堰間の草刈と周辺のゴミ拾い
185	10 月 24 日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れ(欠株の補植と土の補充) ・学校付近の草刈と周辺のゴミ拾い
186	11 月 7 日(日)	AM8:00～ ～11:30	・香呂南小前	・河川敷花壇の手入れと花壇まわりの草刈およびゴミ拾い ・毘沙門堰～なめら堰間の草刈と周辺のゴミ拾い
187	11 月 12 日(金) ↓ 13 日(土)	AM8:00 PM17:00	・一泊親睦旅行	・高野山～南紀方面(詳細は参加者へ後日お知らせします) ・会費:男性20, 000円　女性18, 000円 ・申込:5, 000円を添え、会長・事務局のいずれかまで

くじけないで

ねえ　不幸だなんて　溜息をつかないで
陽射しやそよ風は　えこひいきしない
夢は平等に見られるのよ
私　辛いことがあったけれど
生きていてよかった
あなたもくじけずに

『化粧』（9 7 歳の作）
倅が小学生の時
『お前の母ちゃんきれいだな』って
友達に言われたと
嬉しそうに言ったことがあった
それから丹念に
九十七の今も　おつくりをしている
誰かに　ほめられたくて
『返事』
風が耳元で
「もうそろそろ　あの世に行きましょう」
なんて　猫撫で声で誘うのよ
だから私すぐ返事したの
「あと少しこっちに居るわ

やり残した事があるから」
風は困った顔をして
すーっと帰って行った

ちなみにこの『くじけないで』は『柴田トヨ』なる96歳の女性の作、彼女の作る詩が脚光を浴びているとか。明治4 4 年栃木市で生まれ平成 22 年現在 98 歳でご健在の由。産経新聞に紹介され「朝の詩」というコラムにも時々登場し老若に元気を与え静かなブームが起き始めていたところ、東京都内に住むシャンソン歌手がこの詩を読んで感動し、その詩に曲を付けCDを自費製作、反響は一挙に拡がりを見せているという。彼女は米商いの裕福な家の一人娘だったが 10 代の頃に家が傾きいろいろな所に奉公。20 代初めに結婚したが数か月で離婚、33 歳の時仲居をしていた店で調理師だった柴田曳吉と再婚、翌年健一を授かる。平成 4 年曳吉と死別後は宇都宮市内で独り暮らし。90 歳を過ぎて足腰が不自由になり、健一氏に勧められて詩を書くことを覚える。

川の会の会員の平均年齢68. 5歳。足や腰などに痛みを覚えつつ川の草刈・ゴミ拾い・花壇の手入れなどに参加する方が大半。彼女の詩から元気を貰って頂ければ嬉しい。

川のどこからもホタルを飛ばせたい

7 月 5 日、朝日新聞に私達が取組むホタルの幼虫放流が下掲記事のように紹介された。飼育から放流までが手軽で安価なのが長所だが、動く姿が見え難く実感できないのが何といっても短所、この短所を克服したいと思案しました。
ひとたび消滅した生態系の復元は「まさに夢を見るようなこと」。川の会では 4 年前、設立時に掲げた夢の実現に動き始めました。昨年から子供会や小学校とのコラボも始まり今年から幼虫の動く姿が目に見える大きさまで育てて放流する活動が加わりました。(注)ホタルなど

多くの生態系の絶滅や異変の原因を考えるのは夢の実現には無駄ではありません。香寺町史にあるように農薬使用などが筆頭要因かも。この要因は、生活の全てにおける価値観の重点が高効率化・便利さ・低価格指向・現金決済化などへ移ったこと。特に農山村では若年世代の労働力が商工業分野へ激しく流出、農山村を護る負担の大半が爺ちゃん婆ちゃん母ちゃんという三ちゃんへ移行し農耕内容が変わったことが大きな要因に挙げられましよう。

川の姿も国や県等の施策により兩岸及び川底のコンクリート化が進められ川から多くの生態系が消えて行きました。戦後の飢えをしのぐためという初期目標をクリアした後もこの工法が改められず、むしろ推進された事も大きな要因と言えましよう。幸いにも須加院集落が行政に対し災害修復への訴求力が低かったからなのかどうかは不明ですが、須加院川はその補修に三面コンクリート化された部分が皆無に近かったことで、絶滅の危機に瀕しながらもホタルが生き残りました。おかめ谷下の保喜堰付近・親の倉谷の合流する横枕堰付近・城ヶ谷川や鍵の谷川の合流する付近 等々です。

川のゴミ拾いと拾う為の前作業としての草刈活動とが相まって石と砂の川原がアチコチに発生、ホタルの飛びが目立ち出しましたが、残念ながら昔のようにホタルが川じゅうから飛び出すまでには至っていません。昔のように川のどこからもホタルが飛んだらいいなあと願

い、生き延びて来たホタルの幼虫を飼育し放流する活動に取り組んで四年になりました。

ところで『ホタルの飛び里』は川の会だけのものではありません。多くの方々がクチコミ等で遠くから来村、また遠くに住む子や孫らが見物に帰郷、正に地域が共有する宝です。それだけに、当地に住む一人でも多く

の方々に「ホタルの里づくり」に賛同して頂き、共に積極的に参加しながら地域の共有財産を大きく膨らませ更に確固とさせたいものです。基本動作は、川のゴミを拾い　拾う為の草刈をする・川へゴミを捨てず捨てさせない・飛ぶホタルや遊泳する川魚を増やす等々、川の美しい景観の復活を促し確保す

ることではないでしょうか。

(注)　中播磨県民局から、須加院川の会が取組む『ホタルの幼虫を飼育放流し川じゅうからホタルを飛ばす活動』へ助成金が支給されることになりました。

飼育する幼虫は通常では夏の高温に死滅してしまいます。この暑さに乗切る飼育機器などの調達費、趣旨を理解頂きその一部へ助成金を頂くことになりました。初めての夏越し飼育、アクシデントが無ければ11月頃には10ミリ余りに育つことでしょう。コラボする主人公の子供達にホタルの幼虫の動く姿を見せ『実感ある放流』の実現にワクワクしています。放流予定は次号にてお知らせします。写真は南小の正面ロビーに置いた飼育設備。



ボトルキャップ集め　ありがとう

2010/8/9、送品エコキャップは 55,600　個(ワケン代 69.5 人分)となりました。詳しくは下記のページからhttp://ecocap007.com/pdf/capkaisyu_pre.pdf
検索名「36039　須加院川の会　事務局」にて